

## 研究倫理の評価尺度の開発

### 教授・瀬戸山晃一からのメッセージ

医学系研究における**倫理的意思決定**やそれに影響を与える**組織の環境**を可視化する評価尺度の開発を目指します！



### キーワード

研究不正、研究倫理教育、隠れたカリキュラム、志向倫理、評価尺度

### 研究の概要

医学教育学・看護倫理学・認知心理学・法学・行動経済学・統計学などの学際的観点から**日本の医学系研究の風土に適したシナリオ設問形式の評価尺度**の開発を行います。評価尺度を用いて、研究活動における**倫理的意思決定**とそれに影響を与える**組織環境の可視化**を実現します。

### 研究内容

本研究は国立研究開発法人**日本医療研究開発機構**（AMED）の公的受託研究費により行っているプロジェクトで、研究分担者として本学の他教室の手良向教授・吾妻教授・吉井講師・今井講師や九州大・東京医科歯科大・新潟大の研究者に参画いただき学際的研究に取り組んでいます。本研究が取り組む課題は、次の3つの柱によりなっています。

- **研究倫理教育の教育効果のモデル評価尺度の開発**：海外の先行研究である研究者の倫理的意思決定を可視化する**PDR**（Professional Decision-Making in Research Measure）、組織環境を可視化する**SORC**（Survey of Organizational Research Climate）などを調査分析し、それらを参考に日本の研究文化や風土にあった、独自のシナリオと設問からなる評価尺度の開発を行います。そこでは研究不正や不適切な研究活動の原因とされる、いわゆる「**隠れたカリキュラム**」の負の影響の可視化も試みます。
- **教育効果検証に用いる教材や研修の選定**：評価尺度の信頼性と妥当性を検証に用いる研究倫理に関するDVDや映像教材や研修会を選定します。
- **評価尺度モデルの有用性の検証と改良**：本学や他機関の医学研究者や大学院生や医学科生などに開発中のシナリオ設問に回答していただき、その結果をもとに妥当性と信頼性の検証とその改良を行います。

なおプロジェクトの詳細は次のホームページを参照ください。<https://amed.setoyama.jp/>

### 今後の展望

現在開発中の評価尺度を外部専門家委員の査読を経て、本学や他機関の医学研究者や大学院生や医学科生などを対象に実施し、その妥当性と信頼性の検証を行います。その結果にもとづいて評価尺度の改良し日本の多くの研究機関で使用できる汎用性の高い評価尺度を完成させます。

